

- 在来の一般的な工法で、床下換気孔のある場合は、面積や延長さの欠除はしないで、特記として換気孔の形状・寸法と個所数を明記すること。
- 捨定規や目地材等の附属部品の数量、必要数値、所要数値を記載すること。

2. 腰面部位。～ 腰壁部分（古来柱立ちの場合）

※現代の建築では壁面部位とし、仕上げが異なる場合は壁面腰部位として取扱うこととする。

- 古来型では基礎、礎石（沓石・地覆証石・玉石）を据え付け柱を建て込み、地貫・地覆や足固め材等で固定した工法で、柱間（壁下）を証石・狭間石（はざまいし）・吳紹太石（ごろたいし）等を敷き並べて、建物軸と基礎部分とに区別けたれていた。

壁を塗り落しや、壁塗り止め材（木材や竹類）を取付けたり、または腰壁塗り止めとして、板張り・竹張り等で、横（樽張（くればり））・縦（切張）の手法が取り入れられていた。

3. 壁面部位。

- 眞壁仕上げ。古来から生き続けている木造建築で外部仕上げの工法で、主として木舞い掻き、荒壁塗り裏戻しむら直し、中塗り、仕上げ漆喰塗り（散り仕舞い）、泥障なまこ漆喰塗り、仕上げが行なわれていた。防水防湿性・換流性に優れている。計測・計算（積算）し、算出数値（個所数---何枚と表示する）設計数量として記載する。なお壁散り仕舞いの延長さ、泥障なまこ漆喰塗りの成・長さ等を算出し記載すること。

※泥障なまこ漆喰塗り。～ 工程的に壁面仕上げと分離した工法を施すこと。壁面仕上げ完了後に、泥障部分の中塗り、なまこ泥障漆喰塗りを行なうこと。

- 大壁仕上げ。

大壁仕上げの場合は、構造軸組材面に（透湿・防水性）、換流性の良いシート紙張り施工とする。計測（外壁仕上げ表面）・計算し、算出数値を設計数量として記載すること。張り仕上げ材で、表面塗装の場合は必ず張り仕上げ前の表面塗装の場合は明記すること。

- 板張り仕上げ（木材加工板材）---板の取付（釘止め等）けにより、ひび割れ・めり等を防止する工法を施すこと。加工働き幅・働き長さ・割付けによる必要数値を算出する。「挽立幅・厚さ・長さ」（枚 \times m²）や束による梱包入数等を調べ、「所要数量」を算出する。「必要数値」・設計数量、「所要数量」を記載すること。

※横板張り・下見板張り。～ ささら子下見・押し縁下見・よろい張り下見（南京下見）・目地切り下見（ドイツ下見）・凸目地下見・丸太組み下見・箱目地下見・眞壁ささら子下見・-----等。

※縦張り羽目板。～ 羽重ね羽目・合じやくり羽目・重ね羽目・目板羽目・大和羽目・敷き目羽目・目透し合じやくり羽目・大面取り合じやくり羽目・すべり刃羽目・さねはぎ羽目・突き付け羽目・-----等。